

「聞こえ」のバリア 解消への提言 ——共生社会を目指して

「まわりの配慮・理解・協力があれば、聴覚障がい者をはじめだれもが安心して暮らせる社会は実現できる!」
—聴覚障がい者として多くの偏見・差別などを体験し、30年以上にわたりその解消に取り組んできた著者が自らの体験をもとに提案する。

「日本には現在、軽度を含めると約 600 万人の聴覚障がい者がいる。その 65 パーセントは年齢とともにになっている。聴者も明日はわが身かもしれないのだ。“いつか自分も通る道” という認識が大切になる。また “聞こえることが当たり前” という発想を転換することも大切である」「私は、障がい者は障がい者として胸を張って生きること、自立していくことこそが何より大切だと思っている。手話通訳や要約筆記などの人的な配慮、文字表示機などの機器的な配慮があれば、聴覚障がい者も人間として社会にかかわっていける」(いずれも本書より)

好評
発売中!



中園秀喜

四六判272ページ
定価1785円(税込み)
ISBN978-4-14-081307-2

〈著者紹介〉
中園秀喜 なかぞの・ひでき
(ペンネーム岩渕紀雄)

大分県出身。バリアフリー・アドバイザー。国土交通省、経済産業省、厚生労働省、総務省消防庁などバリアフリー・ユニバーサルデザイン関係委員、NHK「聴力障害者の時間」司会歴任。『社長、バリアに挑む』(同友館)『拝啓 病院の皆様』(現代書館)ほか、著書多数。平成 19 年度「勇気ある経営大賞」優秀賞等各種表彰受賞。

お問い合わせ

TEL. &FAX 03-3380-3324

〒164-0014 中野区南台 2-51-7-707 号

NPO 法人 ベターコミュニケーション研究会 (NPO-BCS)

equal@bcs33.com